

平成16年度病害虫発生予察予報第12号

平成17年3月15日
長崎県病害虫防除所長

【気象（平成17年3月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。
週別の気温は、1週目は低く、2週目は平年並、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素	要素別確率		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	50	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

* 予報対象地域：九州北部地域

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病 さび病	並 並	並 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	やや多 並 並 並	やや多 並 並 並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病（防除情報第13号） 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類 （防除情報第13号）	並 並 やや多 やや少 やや少 少 多	並 並 やや多 やや少 やや少 少 多
タマネギ	白色疫病 ボトリチス葉枯症 ネギアザミウマ	やや少 並 少	やや少 並 少
いちご	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 少 並	やや少 並 少 並

かんきつ	そうか病 かいよう病 (防除情報第14号) ミカンハダニ	やや少 (越冬病斑) 多 (越冬病斑) やや少	やや少 やや多 やや少
果樹共通	果樹カメムシ類	少 (越冬量)	少
茶	カンザワハダニ	やや少	やや少

【麦 類】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 3月上旬の巡回調査の結果、発生は認められなかった(大麦、裸麦：発生を認めない。小麦：発生茎率0.01%)。

(2) 3月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. さび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 3月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(2) 3月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

【トマト】 ()内は平年値

1. コナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ、ワシコナジラミ)と黄化葉巻病

1) 予報内容

発生程度 コナジラミ類 並
黄化葉巻病 やや多

2) 予報の根拠

コナジラミ類

(1) 3月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.4%(0.8%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

黄化葉巻病

(1) 3月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.5%、発生圃場数は12筆中4筆であり、一部多発地域があった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) シルバーリーフコナジラミは黄化葉巻病を媒介するので密度低下に努める。

(2) ハウス内の防除を徹底し、防虫ネットにより本虫の侵入を阻止する。また、発病株を抜き取り、適正な処分を行なう。

(3) 訪花昆虫(ハチ)を利用するハウスでは、コナジラミ防除薬剤の選択に注意し、影響の少ない薬剤を使用する。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

- 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.2% (0.3%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。
3. 葉かび病
- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発病株率は1.5% (1.5%)、発生圃場数は12筆中2筆であった。

【きゅうり】

1. ベと病
- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は5.7% (6.0%)、発生圃場数は12筆中5筆であった。
2. うどんこ病
- 1) 予報内容
発生程度 並
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は4.1% (5.7%)、発生圃場数は12筆中5筆であった。
3. 褐斑病
平成17年3月15日付け、病害虫発生予察 防除情報第13号による。
4. 菌核病
- 1) 予報内容
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発病果率 0.1%)。
5. 灰色かび病
- 1) 予報内容
発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった (発病果率 0.6%)。
6. ミナミキイロアザミウマ
- 1) 予報内容
発生程度 少
- 2) 予報の根拠
3月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.2% (2.6%)、発生圃場数は12筆中1筆であった。
7. コナジラミ類 (シバ-リ-コナジラミ、オシロイコナジラミ)
平成17年3月15日付け、病害虫発生予察 防除情報第13号による。

【タマネギ】

1. 白色疫病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発病株率 0.3%）。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、発病株率は0.8%（1.2%）、発生圃場数は15筆中2筆であった。

3. ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は9.3%（30.1%）、発生圃場数は15筆中8筆であった。

【いちご】

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった（発病株率 0.4%、発病果率 0.1%）。

2. 灰色かび病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、発病果率は0.2%（0.3%）、発生圃場数は27筆中4筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.7%（2.8%）、発生圃場数は27筆中1筆であった。

4. ハダニ類

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は6.0%（5.8%）、発生圃場数は27筆中13筆であった。

【かんきつ】

1. そうか病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、越冬病葉は認めなかった（越冬病葉率 0.0%）。

2. かいよう病

平成17年3月15日付け、病害虫発生予察 防除情報第14号による。

3. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は1.3%（3.2%）、発生圃場数は39筆中8筆であった。

【果樹共通】

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

平成17年1月24～31日に常緑広葉樹林の落葉中におけるチャバネアオカメムシ成虫の越冬量を県内18地点（1㎡×3点 計3㎡）で調査した結果、0.06頭/㎡（表）で、平年値0.40頭/㎡（過去10年の平均、ただし最高値（平成8年）及び最小値（平成13年）の値を除く）に比べ少なかった。

表 チャバネアオカメムシの越冬量結果

調査年	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	平年値	H17
調査地点数	13	14	18	18	18	18	18	19	19	19	18	18
1㎡当り虫数(頭)	0.03	2.62	0.04	0.26	0.24	0.48	0	1.25	0.09	0.82	0.40	0.06

【茶】

カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.7%（1.3%）、発生圃場数は16筆中5筆であった。